



JSSH-ASSH Traveling Fellow報告記



取手北相馬保健医療センター医師会病院 整形外科 吉田 綾

この度JSSH-ASSHトラベリングフェローの機会をいただき、2015年8月24日からASSH meetingを挟んだ約1か月間で6施設を訪問しました。同行の西脇先生と、前半と後半に分けて報告いたします。

貴重な機会を与えてくださった、矢島弘嗣理事長、柴田実担当理事をはじめとする国際委員会の先生方に心から感謝申し上げます。各施設での歓待や、プレゼンテーション、スタッフとの交流を経験し、これまでの両学会友好の歴史を感じると共に今後如何に実のあるものにしていくかが課題だと感じました。

• **Dr. Steven Glickel, C.V. Starr Hand Surgery Center, St. Luke's-Roosevelt Hospital, New York**

全米最古の手外科プログラムを持つ施設の一つとして、多くの著名な先生方が学ばれた歴史ある病院で、クリニック見学の他マンハッタン内3つのSurgery Centerを移動しながらの手術見学でした。現在8:2で女性フェローが多いようですが、ここに限らず女性手外科医、フェロー、レジデントが多く、女性のライフワークとしての手の外科の可能性を感じました。最終日にはNew York Academy of Medicineの図書館で、William Littler直筆の手稿を見ることができました。手外科医が一度は見たことのある図の数々に触れ、身の引き締まる思いでした。

• **Dr. Michael Hausman, Mt. Sinai Hospital, New York**

Mt. Sinai groupはマンハッタンを中心に幾つもの病院を持ち拡大傾向にあります。前腕の矯正骨切り、人工手関節置換術などの手術見学と、合間に今年のASSH meetingでBest paperに選ばれたOCDの関節鏡手術などをビデオで紹介して下さい、短期間でしたが充実した訪問でした。

• **Dr. David Ring, MGH, Boston**

Dr. Ringはとてもお忙しそうで、ときはきと手術をなさっていました。ハンドフェロー、レジデントの他多くのリサーチフェローをまとめ、効率的に研究を進めている様子でした。外来診療が印象的で、患者さんのpsychosocialな背景に関心が高く、時間をかけ支持的に傾聴されていました。

• **Dr. James Chang, Stanford University, San Francisco**

恵まれた施設での、数々の興味深いMicrosurgeryやCantor Arts Centerの彫刻を見学することができました。また別の日にはDr. Jeffery Yaoの母指CM関節症手術などの外来手術を見学しました。

・ **70th ASSH Annual Meeting, Seattle**

初めての参加でしたが、cadaverを用いた教育的なプログラムや数々のawardなどキャリアやresearch mindを刺激する内容に溢れ、興味深い体験でした。International Traveling FellowとしてSterling Bunnell Traveling Fellowship Luncheonにて肘部管症候群の内視鏡手術について発表し、アジア、中東、ヨーロッパ、南米からレジデント、プロフェッサーなど様々な背景のフェロー達11名と交流しました。

これまで漠然とイメージしていたアメリカ医療の実際に触れ、体験できたことは本当に光栄に思います。今後も多くの先生が体験できるよう本フェローシップの継続を祈念し、また私自身も交流の一端を担えるよう今後も研鑽を積んでいきたいと思います。

最後に、応募にあたり推薦していただいた筑波大学の山崎将志教授・西浦康正教授、ご指導いただいた奥津一郎先生、様々な情報を下さった皆様、参加をご許可いただいた取手医師会病院の皆様、訪問先でお世話になった先生方に心よりお礼申し上げます。



Dr. GlickelとHand Fellow達と共に



Dr. Chang, Dr. Hentzと各国からのObserverと共に